

ナムコとは関係なし

ケムコ

得意ジャンル	アドベンチャー
FCタイトル総数	22本
ファーストタイトル	ダウボーイ
ラストタイトル	ミッキーマウスⅢ 夢ふうせん

機械メーカー寿工業の子会社・コトブキ技研工業を母体に、1984年に創業したソフト開発会社コトブキシステム。そのゲームブランドとして名を馳せたのが、ケムコである。

1985年からファミコンに参入し、1992年までに22タイトルを輩出した。『インドラの光』といったオリジナルRPGや、『ホワイトライオン伝説』など原作もののゲーム化作品も手がけているが、とりわけ同社が得意にしていたのは海外PCゲームの移植だ。

洋ゲーとの橋渡し役を担う

代表的なところでは、参入第1作のミリタリーアクション『ダウボーイ』、画面分割式の対戦型アクション『スパイvsスパイ』、ハードなダーク

ファンタジー『ドラゴンウォーズ』、そして『ディジャブ』『シャドウゲイト』『悪魔の招待状』からなるケムコアドベンチャーシリーズ3作など。ユーザーをときに唸らせ、多分に困惑させた玉石混淆のラインナップではあったが、いずれにも国産のゲームにはまずありえない海外作品ならではの独特的な仕様やセンスがあり、ファミコンソフトの多様性を見せてくれた。

なお同社は、ファミコン中堅サードパーティの中では数少ない生き残り組である。2005年に改めてケムコという会社を設立した上で、いまなお活動中。携帯電話やスマートフォン向けにRPGなどのオリジナルゲームを送り出し続けている。



歩兵の戦いを描いた『ダウボーイ』。ダイナマイト、ハシゴ、ベンチなどを駆使して敵陣を進もう。

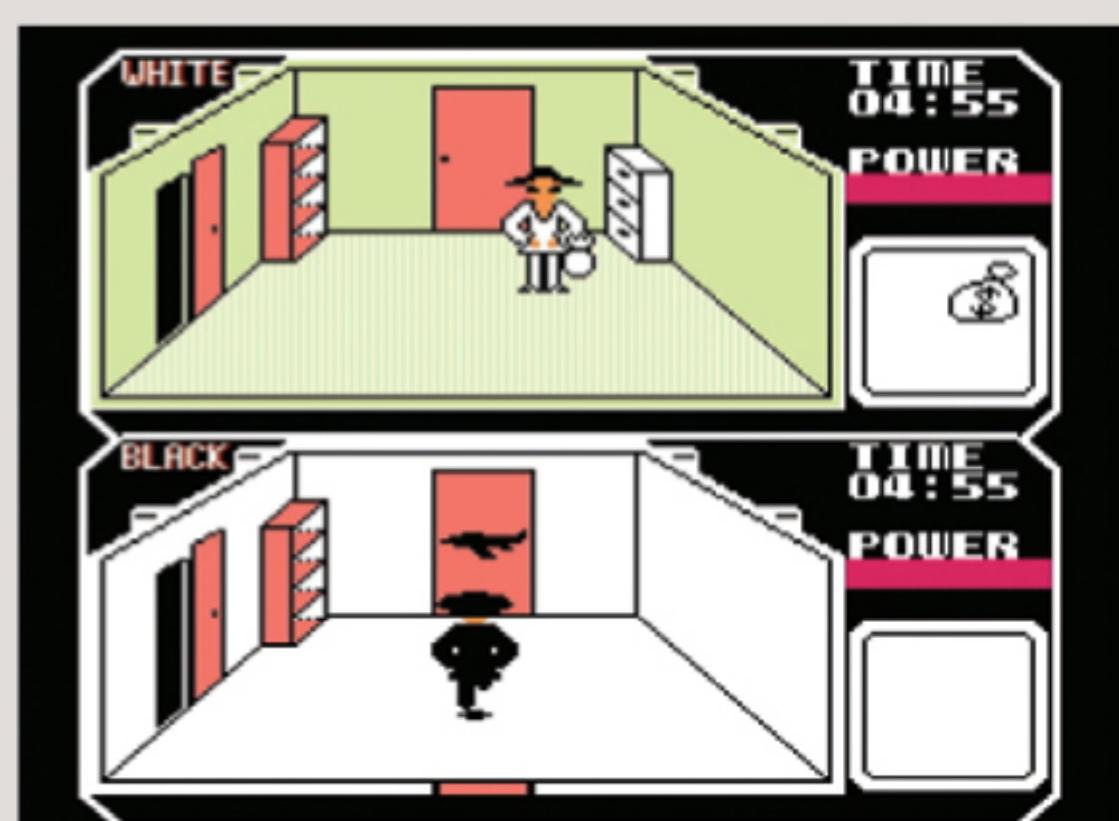


精霊を召喚して戦うシステムが面白い『ホワイトライオン伝説』。主人公マリアの表情にも注目。

奪い合うのはディスクシステムの設計図 スパイvsスパイ

■アクション ■1986年4月26日発売

同名アメコミのゲーム化作品を国内市場向けにアレンジ移植したもの。タイトルの「スパイvsスパイ」は「スパイアンドスパイ」と読む。2人のスパイが上下2分割の画面でそれぞれの屋敷を探索。目的のアイテムを集めつつ、相手を陥れるための罠を張りつつ、相手の仕掛けた罠をかわしつつ……といった具合に展開する対戦型アクションである。1人プレイのCPU戦はAIが弱すぎて正直どうしようもないのだが、対人戦での駆け引きの面白さはバツグン。ただファミコン屈指のリアルファイト発展ゲームという側面も持ち合わせているので、熱くなりすぎには注意されたし。



相手側の画面の動きも気にしながら、的確にトラップを仕掛けよう。読み通りに決まったときには格別の快感がある。

終わり続けるわたしの ぼうけん シャドウゲイト

■アドベンチャー ■1989年3月31日発売

元はアメリカのパソコン用ゲームで、ファミコンへの移植に際して『ディジャブ』に続くケムコアドベンチャーシリーズとしてリリースされた。勇者となって魔王の城を探索していくコマンド選択式アドベンチャーである。海外作品らしい難度と自由度の高さが遺憾なく發揮されており、剣や毒薬を自分に対して使えてしまう「セルフ」コマンドの存在をはじめ、幾多の可能性から生み出される無数の理不尽な死に様がプレイヤーを待ち構えている。ケムコによる奇妙すぎる日本語訳も見どころのひとつで、力オスなゲームをより力オスに仕立てあげたその手腕はある意味見事だ。



剣をセルフに使えば当然ゲームオーバー。とはいえた前からすぐやり直せる親切設計だ。いろいろ試してみるのが本作の正しい楽しみ方と言える。